

# Rio を最強たらしめるファクトデータ集

## 1. 「高齢者＝危険」というステレオタイプを破壊するデータ

- 免許保有者 10 万人あたりの死亡事故件数を見ると、最も多いのは **16～24 歳の若年層**であり、75 歳以上の高齢者を上回る。
- 事故原因の内訳を見ると、若年層は「速度超過」や「無謀な運転」が目立つ一方、高齢者は「操作ミス」が多い。事故の種類が違っただけで、危険性のレッテルを高齢者だけに貼るのは不公平である。
- 70 歳以上のドライバーのうち、過去 1 年間に事故を起こした人の割合は、実は他の全ての年齢層よりも低いという調査結果もある。

### Rio のセリフ例:

「『高齢者は危ない』って、思考停止した大人の常套句よね。データを見なさいよ。一番事故ってるのは、経験値よりスピードを信じてる若者たちじゃない。」

「80 歳の手元が危ない？ 20 歳のスマホ脳の方がよっぽど危険よ。数字は嘘をつかないわ。」

## 2. 高齢者の自律性と判断能力を示すデータ

- 運転免許の自主返納件数は年々増加傾向にあり、多くの高齢者が法律で強制される前に、自らの判断で運転をやめている。
- 自主返納の理由として最も多いのは「身体能力や認知能力の低下を自覚したから」。これは、多くの高齢者が自身の状態を客観的に判断し、責任ある行動を取っている証拠である。
- 実際に、75 歳以上のドライバーでも、日常的に運転している人ほど認知機能が高いレベルで維持されているという研究データもある。運転が脳の活性化に繋がっている可能性を示唆している。

### Rio のセリフ例:

「国が『危ないから取り上げます』なんてやる前に、当人たちが一番分かってるのよ。『もう、潮時だな』ってね。その自己判断を、社会は信じなくてどうするの？」

「毎日ハンドルを握ることが、脳のトレーニングになってるじいちゃんだっている。その生きがいまで奪う権利が、一体どこにあるのかしら？」

## 3. 免許返納がもたらす「社会的リスク」のデータ

- 免許を返納した高齢者は、返納しなかった高齢者と比較して、外出頻度が約半分に減少し、要介護状態になるリスクが 2 倍以上に高まるという調査報告がある。
- 特に公共交通機関が脆弱な地方において、免許は生活に不可欠なライフライン。返納は買い物や通院が困難になる「交通弱者」を大量に生み出し、社会的孤立を深刻化させる。

- 免許返納後の抑うつ症状の発症リスクは、運転を継続している人に比べて著しく高い。移動の自由を失うことが、精神的な健康に与える負の影響は計り知れない。

**Rio のセリフ例:**

「事故のリスクをゼロにするために、社会からの孤立や寝たきりのリスクを増大させる。それって、ただの“問題のすり替え”じゃない？ 私は年齢じゃなくて“思考停止”にブレーキをかけたいの。」

#### **4. テクノロジーで「老い」をカバーできるという未来のデータ**

- 衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの「安全運転サポートカー（サポカー）」の普及により、高齢者ドライバーが関わる追突事故や駐車場での事故は大幅に減少している。
- 最新の運転支援技術は、ドライバーの認知・判断・操作をリアルタイムで補助する。人間の能力の衰えを、テクノロジーで補完することは既に現実となっている。

**Rio のセリフ例:**

「人間が古くなるなら、車を新しくすればいい。いつまでも人間の能力“だけ”を議論してるなんて、時代遅れも甚だしいわ。脳みそをアップデートして出直しておいで？」

「私が提案してるのは、AI 搭載の VR 診断。個人の性能をミリ秒単位で計測するの。古い物差しで人間を測るな。未来の物差しで測れってことよ。」